



明日に向かって 伝える 続ける

パルシステム

# 放射能レポート

pal\*system

2025年8月4回

次回は2月企画予定です



## 核のない世界へ 今、私にできること

今年は戦後80年となる節目の年。戦争を知る世代が年々減っていくなかで、被爆直後の日本を知らない世代はどうやって核の脅威を語り継ぐのか。今回は大学生活を送りながら「語り部」をめざす女性に話を聞きました。

のぞみ  
**取材した人 浜岡 希実さん**

神奈川県出身。高校時代は「高校生平和大使・高校生一万人署名活動実行委員会」の一員として、国連へ向けた核廃絶の街頭署名活動を続けていました。「世界で唯一の被爆国日本、そこに生まれた使命感みたいなものがありました」と浜岡さん。しかし、街頭に立つと好意的に協力してくれる人だけでなく、心ないことを言う人もいたそうです。

「お前らおとなに利用されているだけなんだよ」「たかだか高校生がやったことで何が変わるんだか」「核軍縮なんて無謀だろう」自分がやっていることはちっぽけで、何も変えることができないんじゃないだろうか。そんな不安が心をよぎりました。

その一方で、自分の取り組みを知った同級生が「署名は名前や住所が出ちゃうからできないけど、じつは興味があるんだ」と話してくれたことも。「それを聞いたときは本当にうれしくて、自分のやっていることは決して無駄じゃないんだって。平和活動ってなかなか人に言えないけど、心のどこかで気になっている人たちはいる。自分が声を上げることで、そんな人たちが何か行動するきっかけになれるかもしれない」

それ以降、もっと何かできないだろうか、と自分の中で模索する日々が始まりました。



写真上)曾祖母との1枚。浜岡さんに戦時中のことを教えてくれたもっとも身近な存在でした。

写真下)高校時代に行った平和ボランティアの活動発表。そのスライドの一場面。

**「ビリョクだけどムリョクじゃない」  
私の行動が人の心を動かした**

『未来の子どもに平和な世界を託したいから』パルシステムで平和活動に取り組んでいた母の影響を受けた私。平和を願う気持ちはみんな同じと思つていました。でも、そうとも限らない、と思つたのは高校3年生のときです」

浜岡希実さんは高校2年のときから「ビリョクだけどムリョクじゃない」をスローガンに掲げる学生団体「高校生平和大使・高校生一万人署名活動実行委員会」の一員として、国連へ向けた核廃絶の街頭署名活動を続けていました。「世界で唯一の被爆国日本、そこに生まれた使命感みたいなものがありました」と浜岡さん。しかし、街頭に立つと好意的に協力してくれる人だけでなく、心ないことを言う人もいたそうです。

しかし、広島・長崎にルーツのない自分の声に耳を傾けてくれる人はいるのだろうか。そのときに思い出したのが自身も所属していた「KNOW NUKES TOKYO」設立時の願い、「被爆地以外の土地」で核問題を考える空間をつくりたいというメッセージでした。これは長崎出身で、被爆三世でもある元代表が、東京を拠点に活動を始めた理由もあります。

「私は『被爆地出身ではない』『被爆三世でもない』ことを逆に強みにしよう。戦争を実際に体験していない私が疑問に思ったことや共感できたことが、次の世代に語り伝えるヒントになるはず。そう考えることにしました」

被爆者の体験や想いを語り継ぐのはもちろん、その話を自分ごととして捉えてもらうには、聞き手側の生活との接点が重要です、と浜岡さん。戦争や原発事故を経験していない世代にとって身近な社会問題「環境」と結びつけることが理解につながると考えました。

「環境学も幅広いですけど、身近なところだとエネルギー問題ですよね。日本では核の平和的利用と前向きな言葉で研究が続けられてきましたが、核がもつ潜在的な危険性は今も昔も変わりません。どれだけ安全に管理したとしても、人の想像を超えた問題がいざれ起きる。そのためには、原子力に依存しない世界にしていくしかありません。被爆者の想いを受け取り、次の世代へつなぐ。そして、核のない世界をめざす。これが、今、日本で生きる私にできることがあります。」

# パルシステムの公式サイトや注文アプリで放射能検査の結果や内容が確認できます

放射能対策に取り組み続けます。

パルシステムは、2011年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故直後から、放射能対策を進めてきました。2011年9月には食品中の放射能の自主基準を設定、国より厳しい基準でお届けする食品の放射能検査を行っています。また、放射能が検出された産地と協力した低減への取り組みや、被災者への支援も続けてきました。今後も放射能検査や対策を続けていきます。

## 検査結果を毎週お知らせ

### 公式サイトから見る場合

- ①公式サイトを開く
- ②トップ画面を下にスクロールする
- ③「News お知らせ」から「放射能検査のお知らせ」を探してクリックする



※トリチウム検査結果は、毎週ではなく検査毎に都度更新します。

### 注文アプリから見る場合

- ①トップ画面の「メニュー」をタップする
- ②「メニュー」画面の「商品関連情報」をタップする
- ③「商品関連情報」画面の「放射能検査結果」をタップする

### 検索して見る場合

「お知らせ」のページはこちらから

放射能 お知らせ パルシステム



## 検査基準・方法はここから確認

- ①「パルシステムの放射能検査はこちら」をタップ



※画面は見本です。

- ②「放射能検査」のページに移ります



パルシステムは2011年3月11日の大震災による事故直後より、放射能対策に取り組んでいます。



インターネットから見られない方は、下記よりお問い合わせをお願いします

パルシステム問合せセンター

0120-868-014

月～金曜日：9時～20時  
土曜日：9時～17時

※通話料は無料です。※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。



## 原爆の図 丸木美術館が改修のため長期休館します

埼玉県東松山市の「原爆の図 丸木美術館」は、画家の丸木位里・丸木俊夫妻による私設美術館。「原爆の図」の連作を通じて原爆の悲惨さを広く伝えてきました。

「この美術館はみなさんとともにあります。みなさんが必要としてくださる限り、美術館の歴史は続きます。生前の俊さんは『原爆の図が忘れられる日が来てほしい』と話されていましたが、現実には戦争や核の脅威は続いている。原爆の図を未来へ手渡すため、ご支援をお願いします。」(学芸員の岡村幸宣さん)

パルシステムでも改修費の寄付を呼びかけてきましたが、今年9月28日を最後に休館し、改修工事に入ることになりました。今回の改修は美術品保存のための温湿度環境の整備やバリアフリー化を目的に行われますが、資材や人件費高騰などの理由により、引き続き寄付を呼びかけています。休館中は各地の美術館へ作品を貸し出す予定です。

リニューアルオープンは美術館開館60周年となる2027年5月5日ごろの予定です。



原爆の図 丸木美術館

住所：埼玉県東松山市下唐子1401

電話：0493-22-3266

営業時間：午前9時～午後5時(夏時間)

休館日：毎週月曜日

※祝日にあたる場合は翌平日 ※8/1～15は無休



アクセス

電車：池袋駅より東武東上線急行約1時間

つきのわ駅より徒歩約30分

森林公園駅よりタクシー約10分

車：関越自動車道東松山ICから小川方面約10分